

1.病棟の具体的な目標と評価

【診療科ブース】

1)安全で質の高い看護を提供する

BLS 研修に看護師・看護補助者 4 名参加できた。また外来の事例をもとに倫理課題をまとめた。

2)病院経営に参画する

インカム導入で各部署の状況を共有でき、ブース・センター関係なく補完できるようになった。採血待ち時間の短縮、超過勤務削減の効果はみられた。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

エスカレーターでの転倒防止の取り組みを、外来に関わる多部門と協働し行った。減少には至らなかったが、表示方法の変更、他部門による見守りが強化され、患者の行動も変化がみられた。

4)専門職としての能力開発に努める

国立病院看護研究学会学術集会発表 1 名、脆弱性骨折マネージャー合格 1 名、排尿自立研修終了 1 名、PEACE 研修、耳鼻科検査研修に各 1 名参加した。ラダーⅡ 暫定 2 名認定された。

5)看護の先輩として学生指導に携わる

外来で行う処置や計測に入るタイミングがわかるようにホワイトボードに項目を書き、可視化した。

6)活気のある職場、元気の出る職場づくりを推進する

ブースを超えて補完できるスタッフが増え、PNS[®]パートナーシップマインドの他者評価は○が前期 93%、後期 91.5%となった。

【処置センター・化学療法センター・内視鏡センター】

1)安全で質の高い看護を提供する

OJT プログラムに沿って内視鏡1名、化学療法2名の育成を行った。化学療法は抗がん剤投与管理のできる看護師の育成が急務となりOJTプログラムを新規作成し育成を行っている。内視鏡は下部内視鏡前処置のOJTプログラムを新規作成し、患者に安全で効率の良い前処置が行えるよう全部署看護師を対象に研修を実施した。

2)病院経営に参画する

外来腫瘍化学療法診療料1を 3,265 件算定できた。またインカムを導入し、処置や受付対応、患者急変等の急な応援要請・対応が迅速に行え、休憩時間未取得ゼロを継続することができ効率的に外来運営が実施できた。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

転倒防止声掛けフローをもとに、リスクのある患者に車いす使用、エレベーター利用を促している。

4)専門職としての能力開発に努める

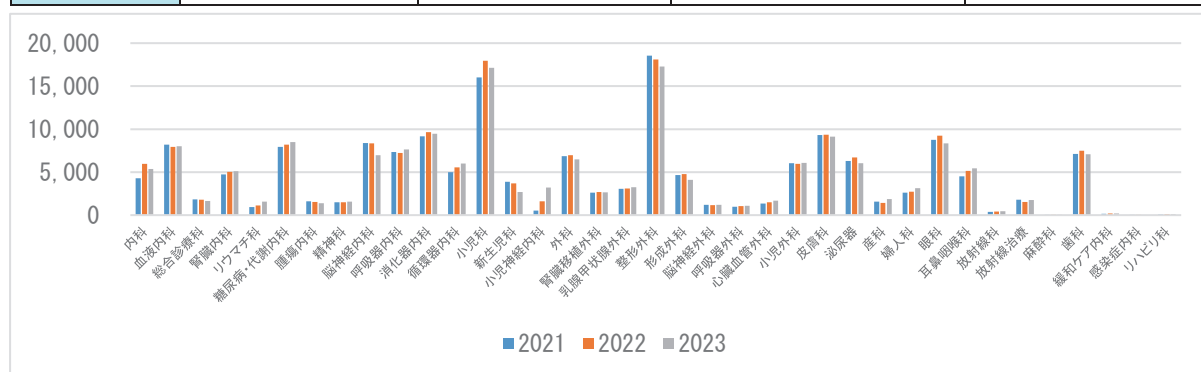
レベルⅠ 2名、クリニカルコーチ1名認定された。個々の目指すキャリアを確認し、研修受講できるよう調整をしている。

5)活気のある職場・元気の出る職場づくりの推進

PNS[®]マインド醸成のための勉強会を実施した。他者への思いやり、相談しやすくなった、外来全体で補完調整ができるようになったとよい評価がある一方で、他者の評価を気にするといった負の評価もあった。PNS[®]マインド定着に向けた勉強会を継続する必要がある。

表 1 外来患者数

	延べ患者数(人)	1日平均患者数(人)	1日平均点数	初診率(%)
令和3年度	169,301	699.6	3807.9	11.8
令和4年度	176,742	727.3	3735.3	12.5
令和5年度	173,653	714.6	3502.0	12.3



2. 外来統計

表 2 内視鏡件数等

	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	ERCP	EIS	カプセル内視鏡	ダブルバルーン
令和3年度	2688	1393	356	227	5	50	29
令和4年度	2591	1304	308	235	6	38	17
令和5年度	2807	1513	336	269	5	28	20

表 3 外来手術件数

整形外科	形成外科	眼科	外科 乳腺甲状腺外科	皮膚科	小児外科
88	106	329	49	104	1

表 4 診療科別外来化学療法件数

	血内	呼内	消内	乳・甲	泌尿器	腫瘍内	耳鼻咽喉	婦人	腎内	整形	皮膚	小児	脳神経系	循環器
令和3年度	1975	532	1048	390	122	43	76	1	1	0	0	1	3	0
令和4年度	1748	565	1370	273	216	38	144	6	3	0	7	0	0	0
令和5年度	1905	491	1320	277	195	81	146	8	1	25	30	9	17	0

3. 看護統計

表 5 外来排尿自立指導管理料

	指導実施患者数	指導加算料 (点数 200 点)
令和3年度	504	100,800
令和4年度	336	67,200
令和5年度	287	57,400

表 6 二次性骨折予防継続管理料 3

	指導実施患者数	指導加算料 (点数 500 点)
令和4年度	126	63,000
令和5年度	308	154,000